

## 活動事例紹介

## 中目地域環境保全推進協議会〔大崎市〕

概要	取組面積：126.9ha（田123.3ha, 畑3.6ha） 資源量：水路25.1km 農道9.5km ため池1箇所
令和4年度交付金	農地維持支払交付金 3,771千円 資源向上支払（共同活動）交付金 3,004千円 資源向上支払（施設の長寿命化）交付金 1,437千円
地域の概要	大崎市は東西に約80キロメートルの長さを持ち、奥羽山脈から江合川と鳴瀬川の豊かな流れによって形成された、広大で肥沃な平野である世界農業遺産「大崎耕土」を有する四季折々の食材と地域資源、そして地域文化の宝庫です。田尻地域にある蕪栗沼は、ラムサール条約湿地に登録され、国内でも貴重な自然環境が残る渡り鳥の楽園です。天然記念物のマガンやオオヒシクイなど、約10万羽を超える雁が朝もやの中から一斉に飛び立つ姿は見るものに大きな感動を与えてくれます。
取組みの概要	当組織は、農地・水・環境保全向上対策を機に発足から17年を迎えました。担い手のバックアップを目的に、大型トラクターモアのリースや、ほ場整備により分断された用水路の整備など地域課題にこたえる形で活動を続けています。 さらに、令和3年からは地域合意を第一に「田んぼダム」にも取り組んでいます。
取組みによる効果	ほ場整備事業の進展により、農地集積と併せて担い手の除草作業は大きな負担となりました。大型トラクターモアの導入は、それらの課題解決策の一つです。結果として担い手からの理解を得ることになり、その後の「田んぼダム」開始に際しての地域合意の布石となりました。今後とも、地域課題に真摯に取り組むことが事業の継続にはなくてはならないものと考えています。
今後の課題	「田んぼダム」の推進については、令和元年東日本台風の豪雨による稲わらの堆積がきっかけとなりました。他方、畜産農家と耕種農家による連携は欠かすことのできないでもあり、地域合意に向けて、新潟県への先進地視察研修や地域内での勉強会など3年を要したことが、今となっては思い出となっています。 畜産農家が一定程度いる地域の特色を生かしつつ、環境保全型農業直接支払交付金と併せて引き続き連携に努めてまいります。
その他	当地域は、大崎市内のラムサール条約湿地である「蕪栗沼・周辺水田」と「化女沼」の中間地点にあります。両ねぐらから訪れる「マガン」、「シジュウカラガン」の餌場となっており、毎年12月に鳥類調査を行うとともに、県北部で実施している「フライングギース」との連携も実施しています。



ハンマーモアで担い手をバックアップ



「田んぼダム」で地域貢献



水質調査を実施



長寿命化で水路を整備



「田んぼダム」のための再構築



子どもたちと生き物調査